

第40回番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成25年4月24日(水) 午前10:30～11:35
2. 開催場所 箕面市船場東2-5-47 COM3号館5階 COM倶楽部会議室
3. 委員の出席 委員総数 8名
出席委員 5名
出席委員の氏名 稲垣千秋、高谷和彦、中 宏、
中村 保、牧野直子
以上5名
放送事業者側出席氏名 岡田 堅治(取締役)
大平麻由美(編成課長)
永田 純子(編成課員)
4. 議 題 1) 番組 「底力UP! エイジレスライフ in 箕面」
2) 審議
3) その他番組に対する意見
5. 議事の概要 事務局挨拶の後、稲垣委員長が議長となり審議となる。

6. 審議内容

1) 番組

(1) 事務局より番組説明

おはようございます。ご欠席の桑田委員と稲井委員の分、書面で預かっておりますので、後ほどご紹介させていただきます。

今回は4月から始まった新番組「底力 UP! エイジレスライフ in 箕面」という番組を試聴いただきました。5分番組ですが、その初回から3回分聴いていただきました。箕面市の提供番組で、長寿時代を、経済的な不安をなくし、ライフプランをきちんと組み立てて生きていくための情報や知識を分かりやすく伝えるという趣旨の番組です。「暮らしの豆知識」という国民生活センターが編集している冊子を参考図書として使用しています。年間の放送プランに沿って、4月はまず「ライフプランを立てよう」ということで、老後の生活資金を貯めるためにはどうしたら良いか、また、子どもを育てる場合の経済的なさまざまな知恵だとか、そういったことを盛り込んだ内容になっています。

(2) 審議

委員長：ありがとうございます。ただいま説明が終わりました。それではいつもの通り、順次みなさまのご意見をいただきたいと思えます。

委員：これは箕面市の提供番組ということですが、箕面市から内容をこういうテーマで作ってほしいという依頼が来て、タッキーの方でスキット仕立てにされているのでしょうか。

事務局：箕面市さんから、消費生活に関する番組をやりたい、というご要望を受け、各回のテーマはこちらから出させていただいています。

委員：高齢者だけでなく若い世代の生活設計にも参考になる内容ということと、

ドラマ仕立て、対話形式で放送しているということなのですが、3回分の放送だけではこれからどんな風に展開していくのかまだこれからだと思いますが…、設定は小学校の子どもさんとおばあちゃんとの対話ということですよ。

事務局：はい。

委員：これから教育費がかさむ世代の人、高齢に差しかかっている世代の人、リタイアして現に介護を受けている人とか、どの立場でこれを聞くのかな、というのを考えながら聞きました。シリーズなので、そのときそのときで、たとえば高齢者のかたが聞くといいとか、子育て中の人聞くといいとかあると思うんですけど、どのかたに発信をして聞いてもらうことを想定しているのかが、はっきり分からなかった。子ども役が小学生なんだけど、子どもの質問にしたら「普通こんなこと分かるかなあ」と思ったりするところがありました。今までにないやり方なので、手法としては面白いと思いましたが、これから番組づくりをされるときに、「今回のシリーズはこの辺の人をターゲットにしている」というところに絞り込むのであれば、その前に事前にそういうことをお知らせして、地区福祉会などに呼びかけて宣伝をしたら有効かな、と。

委員長：小学校4年生の孫とおばあちゃんとのやりとりだと思いますが、小学校4年生にしては、言って聞かず知識がそこまで及ぶかなあ、というのは思いました。どうして小学4年生に絞ったんでしょうかね。おばあちゃんに対してもう少し課題を持ってくるのならば、年齢がもう少し上じゃないと理解がしにくいのでは。

事務局：孫とおばあちゃん、という設定にしたことと、年間の中で子どもを育てるための支援的な部分、豆知識的な部分を盛り込んでいるので、たとえば中高年のかたが聞かれて、孫世代のお母さん、中高年のかたの子どもさん世代に知識として教えてあげるとか、そういったことができればと考えます。

委員：一年間の放送計画表は何かに出てるんですか？ホームページとか。

事務局：月単位では出していますが、年間予定は出していません。

委員：聞いていて面白くて、「もう終わっちゃった」という感じで聞き流しました。第1回の番組冒頭でテーマの説明があり、2回目では言ってなかったと思うんですよ。3回目のときも「先週に引き続いて〇〇について」というしゃべり方があった。それでも良いんですが…週が変わってるから、もう忘れてるんですよ。たとえば「先週に引き続き『ライフプランを立てる』について」という風にテーマを言っておいて、「じゃあ今日は〇〇について」と続けると一般に聞いていても分かるかな、と思います。1週間あけて聞く人は何のこっちゃ、となってしまう。5分という短い時間の中に前回のフォローを入れるのは難しいと思うのですが、その辺り、工夫が欲しいなと思いました。会話は植田洋子さんだから本当に分かりやすい。

委員：僕自信がプログラムを見せてもらったときに、全部興味あったし、このタイトルだったら〇〇さんに教えてあげたい、とか、このテーマなら母に教えようとか、身近に必要な情報が上手に分かりやすく、入っているので、すごく良い番組を作ったな、と。さらに、ドラマ仕立てで分かりやすく、ますますもって気に入った番組の一つになりました。ただ、一年間通してになるので、悪徳商法は12月まで待たないといけないというのは、やむを得ない、仕方がないと思うんですけど、ただやっぱり一つは独立した考え方で、ためになる話をしているので、繰り返し繰り返し、5分の番組ですし、上手に間に入れていくことができれば。対象というよりは、そのとき必要になっている人に向けて、になるので、「もうお金も潤沢にあるから生活資金なんて全然問題無いわ」という人にとったら5月は全く聴く必要が無いのかな、というところはあるのですが、でも本当に必要な人にとったら「その辺深いところに手が届く話聞けて良かったわ」というようなこともたくさんあるんでね…その持っていき方は難しいですが、この一年間やってみた上で、来年もこのまま流せるでしょうし、またいろいろな制度が変わったりするかもしれないんで、そういった難しさはあるかもしれませんが、せっかく良いネタをそのときそのとき必要な人にとって常に耳にするような、また目で、こんなことタッキーやってるんだ、というのが分かる工夫はしてほしいな、と思

いました。もう一つは、台詞、植田さんはすごく上手にしゃべっておられるんですが、聞く人にとったら、専門用語でもないんですが、分かるかなあ、というものが。子どもさんもすごくハキハキとしゃべっているんですが、台詞のスピード感とかが難しいと思うんですよ。すごく工夫や苦勞をされているとは思いますが、もうちょっと分かりやすく伝える、スピードなのか、言葉をまだもうちょっと噛み砕くのか、さらにやわらかい関西弁を入れるのか、などをしたらさらに分かりやすくなるかと思いました。あと、録音のときに、ボンボンっとマイクに息が入ってしまっていた。あれがもったいないなと思いました。

委員：設定云々とか問題はあるんでしょうが、単純に情報番組として聴かせていただいている分にはたいへんできています番組だという感じがしましたし、内容も軽妙なタッチで、リズム感がすごく出ていて、聞きやすいのは聞きやすかったですね。別の委員が言われたように、ポツポツとマイクをちょいちょい吹いてしまうのは、嫌な感じがするところもありましたが。今後の放送プランを見ていきますと、子ども…育児から、最終的にはお葬式…お墓まで、というかたちで締めくくっていらっしゃるので、生まれてから死ぬまで、一生のいろんな問題を出して行って、解決する方法というのは違うのかも分かりませんが、問題提起だけはきちりできているような気がしますし、元気に前向きに目標を立てて生活していく、っていう日々のことを考えますと、希望を与えるような一面も十分にある番組だと思っています。

委員長：みなさんいろんな角度から聞いていただいて、ご意見いただきましてありがとうございます。私が思ったのは…これ5分間の番組なんですか？

事務局：はい。

委員長：一番最初に思ったのは、良い企画で良い問題を放送しているのに、こんな5分間で良いのかな、と。また、5分間の中できちっと内容を放送ができるのかな、と。おばあちゃんとお孫さんのやりとりで分かりやすく放送していく。セッティングも良いし、流れも良いし、すべてが上手に運んでいる中で、それに対して何が不足しているかという、時間じゃ

ないかなと思うんですね。放送時間が、良い企画に対して対応できていない、というのが、私が感じたことです。

委員：さらっと聞き流せる情報番組は、これくらいの時間がちょうど良いんじゃないですか？それか、前半・後半で、5分間やって、中でコマーシャルじゃないですけど、やっというて、後5分間やるとマックスで10分…肩凝ってしまいませんか？番組として。5分間はちょうどいいです。

委員：くれないばあちゃんとかえでちゃんのやりとりが軽いタッチだからこそ、割と聞いている部分がある。このタッチですと10分も20分も引っ張られると飽きてくるかも分かりませんね…。台本がたいへん上手いこと書いてると思います。

委員：今までなかった企画なので面白いですね。聞きやすい。

委員：再放送もけっこうありますでしょ、短いから。それも時間帯をかなり変えて、夕方と夜と朝早くとあるので、いろんなライフスタイルの人にも聞いてもらえますね。

委員：定年してから80くらいまでの高齢まで、生活資金だけでも最低2千万から多ければ7千万要るって言うでしょ。そんなもの、定年してから稼げるわけもないのに、そういう数字言われるとぞっとしませんか？そんなところも含めて、あまり細かすぎない、適当なところで置いておくというのが良いんじゃないかと思うんですけどね。言いすぎてもまずいな、と。

事務局：最終週には、必ず悪徳商法などの最新の事例をご紹介します。

委員：かなり厳しいことを言っても、くれないばあちゃんとかえでちゃんがやるわけですから、割と軽くなるでしょうけどね。

委員長：せっかくの良い企画、上手に育てていただいて、できるだけたくさん広めていただいて、この番組が評判になるようにしていただいたらいちば

ん良いことなんですが。

事務局：稲井委員と桑田委員にいただいているコメントです。「高齢者を応援するのが狙いとしたら、『エイジレスライフ』というよく分からないタイトルはないんじゃないか。企画と会話形式の手法が良いだけにそれだけ注文したくなった。おばあちゃんのしゃべり方は関西弁で話したほうが伝わりやすいのではないか。4年生のかえでちゃんはもう少し幼い風に芝居をしたら良いのではないか。一方で、こうした企画・放送手法は継続して、市民に伝わることを願っています」ということでした。もうお一人からは「番組は分かりやすく、聞きやすく、時間的にも程よい。小4の設定に違和感がある。内容的には中1くらいの設定のほうが良いと思うし、そのレベルの会話となっている。パーソナリティのおしゃべりと音楽だけの放送よりも、このような内容の番組ももっとPRしていくべきです」ということでした。

委員長：ありがとうございました。だいたいみなさん仰ってるポイントは一致していますね。できるだけ注意点をチェックしながら、ハンドルを握っていただきたいと思います。

委員：芝居仕立てにつくるのは大変だったと思います。よくできています。

委員：あと、4月から番組編成が変わって、新しくなった番組はこのほかに何か。

事務局：1月から3月まで休止せざるを得なかった夕方のワイド番組を4月から復活させました。全体的には、午前も午後も生放送枠の時間を短縮しています。夕方の番組は「タッキーBOX」という名前でスタートしています。

委員長：再放送はあって良いんですが…その時間帯に聴けなくてほかの時間帯、曜日に聴けるとするのはほんとうに良いことなんですが、再放送、再放送、となるとしょっちゅう聞いていることになるので、同じ番組ばかり聞かないといけないんですね。だいたい2回くらいしているんですか？

再放送は。夜、昼と。

事務局：1回から3回程度です。

委員長：「これこの前聴いた、これこの前聴いた」という番組ばかりになるような気がします。聴いたのばかり聴かされるのはしんどいと思ったのですが。再放送はいいですが、再々放送というのは…。番組に応じてやっていただくというのも、ひとつ考えていただいたらどうかなと思いますので、よろしくをお願いします。それでは長時間ありがとうございました。

7. 審議機関の答申または改善意見に対して措置および年月日

なし

8. 審議機関の答申または意見の概要を公表した場所における公表内容、方法

自社放送

事務所への備置

ホームページ (<http://fm.minoh.net/>)

上記事項を明確にするため、この議事録を作成する。

平成 25 年 4 月 24 日

箕面FMまちそだて株式会社

番組審議会